

令和6年豊能町議会 第7回  
交通特別委員会

会 議 録

令和6年12月16日（火）

豊 能 町 議 会

令和6年豊能町議会 第7回  
交通特別委員会

年 月 日 令和6年12月16日（火）  
場 所 豊能町役場 大会議室  
出席委員 6名  
池田 忠史 高尾 靖子 才脇 明美  
中川 敦司 管野英美子 小寺 正人

欠席委員 なし

委員外出席 永並 啓（議長）

本委員会に説明のため出席した者は、次のとおりである。

町 長	上浦 登	副 町 長	高木 仁
教 育 長	板倉 忠	政 策 監	大西 隆樹
総 務 部 長	入江 太志	総 務 部 理 事	浅海 毅
生活福祉部長	小森 進	都 市 建 設 部 長	坂田 朗夫
こども未来部長	仙波英太郎	総 合 政 策 課 長	山内 拓
総 務 課 長	田中 久志		

本委員会に職務のため出席した者は、次のとおりである。

議会事務局長 浜本 正義 書 記 杉田 庄司

本日の会議に付された案件は次のとおりである。

1. AI オンデマンド交通実証実験（3回目）について

2. その他

午前9時30分 開会

○委員長（池田忠史君）

おはようございます。

先週土曜日ちょっと東地区の方では雪がちらちらとしまして、急に寒くなってまいりました。

またインフルエンザもですね、ちょっと流行が早いっていうか、流行ってきて、小学校もなんか学級閉鎖になっておりますし、皆さんちょっと体調の方はお気をつけいただけますよう、よろしく願いいたします。

では座らせていただきます。

ただいまの出席委員は6名であります。

定足数に達しておりますので、第7回交通特別委員会を開会いたします。

委員会の開会に当たりまして町長から挨拶がございます。

上浦町長。

○町長（上浦 登君）

はい。皆さんおはようございます。

本日はお忙しい中ご参集をいただきまして誠にありがとうございます。

12月議会の最終日にですね、私、町政懇談会を回らせていただいておりますということでお話させていただきましたけれども、昨日、2時から東ときわ台自治会、それから6時から光風台自治会が終わりましてですね、全部終わったというようなことになってございますが、14自治会回らせていただいて、テーマはですね、地域公共交通とそれから空き家と移住対策というようなことも含めて入らせていただきましたけれどもやはり地域公共交通、将来に向けてのですね移動手段、これを非常に皆さんご心配なさっておられるということが、改めてわかってまいりまして、我々ですね豊能町のこの規模、それから財政力も含めてですね、俯瞰的に考えてどういうふうにならぬ、地域の皆さんの移動手段を確保していくのかということ

の皆さんの移動手段を確保していくのかということのを改めて頑張っていかなきゃならないと思っております。思う次第でございますので、引き続き議員の皆様にもお力添えいただきますようによろしく願い申し上げます。

さて本日のですね、交通特別委員会ではですね、協議いただきます項目についてはSideBooksに載せてございます。

しっかりとですね、議論をさせていただけたらと思っておりますので、簡単ではございますが、開会に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。

よろしく願いいたします。

○委員長（池田忠史君）

ありがとうございました。

それではこれより本日の会議を開きます。本日の協議事項は、お手元に配付のとおりです。

まず1. AIオンデマンド交通実証実験（3回目）についてです。

先日12日に閉会となりました12月定例会議におきまして、町から来年3月の1ヶ月間の実証実験を行いたいとの説明があり、関係予算が可決されました。

もうAIを使って3回目の実験をすることが認められましたので、今回この委員会では、今後の実装に向けて、実りある実験とするために、どのように運行したらいいのか、前向きに意見を言っていただき、協議できればと思っておりますので、よろしく願います。

事業概要につきましては、12月定例会議で説明いただいておりますので、早速、委員の方からご意見をいただきたいと思っております。

管野委員。

○委員（管野英美子君）

おはようございます。管野です。

前回の実証実験終わったあとの議員からの要望かな。スーパーとかに、ハニタスが乗れるような予約を助けて欲しいという意見が出ていると思うんですけど、その辺りは、やっていただけるんでしょうか。

○委員長（池田忠史君）

山内総合政策課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

おはようございます。総合政策課、山内です。

前回の実験のときのご意見ちょっと私、把握できてないんですけども、今回1ヶ月間するのに、ゆるりんさんの方で、ときわ台の商店街のところで、案内所というか予約ところを設けますので、こちらの方で対応できるようにしたいと思っております。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

買い物をして、帰り何時かわからないから行きだけ予約しているという人もいると思うんですね、帰りにサービスカウンターとかで予約を手助けするようなことはやっていただけませんか。

○委員長（池田忠史君）

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海です。

そうですね今委員のご要望といいますか、前回からのご要望ということではございますが、先ほどちょっと課長の方も説明をさせていただきましたように、ゆるりんさん、通常の予約を取るだけではなくてですね、予約の仕方なんかも同時に説明できるような対応はさせていただこうとしております。

その中で可能な限りですね、もしできましたら、そちらの買い物をされたお買い物されるところでですね、こちらの電話の予

約を取るところの方に案内していただけるようなそちらの方に繋げていただけるようなことは、少しちょっと考えていきたいと思います。

○委員長（池田忠史君）

管野委員。

○委員（管野英美子君）

お願いします。

それで、公共施設はもちろんのこと、よく行かれるところといえば公民館、西公民館と図書館、それからシートスというところもお願いできますか。

○委員長（池田忠史君）

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

はい。総務部、浅海です。

もとより公共施設ですので、そういったところも運行の予約については、こちらの方へ行ってくださいというようなアナウンスをしてもらうように努めたいと思います。

○委員長（池田忠史君）

すいません、これ、東ときわ台は行けませんが、あとほかのスーパーとかだったら、それはどんな感じになるんですかね。

ゆるりんさんに案内するっていうのはあくまでもそこでやってはるところに誘導するだけですよってなると、ほかコープさんとカナートさんはありますが、その場合は。

はい、浅海総務理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海です。

そうですね今委員長おっしゃるようにちょっと遠方、距離がありますのでそこはどのようにスムーズにいかないのかなと思いますが、ちょっと何か、どういった手立てができるか、ということをちょっと考えてみたいと思います。

○委員長（池田忠史君）

はい、才協委員。

○委員（才協明美君）

才協です。

アンケートとりましたよね。

アンケートの中でどういうことがあったかちょっと今ここで公表できますか。

○委員長（池田忠史君）

はい、山内総合政策課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

以前議会の方にも5年度の実証結果というところでご報告させていただいてたかと思うんですけども、ハニタスの年齢から性別、あと家族構成とか、あと運転免許証持ってますか持ってませんかとか、あとハニタス幾らなら利用しますかというところが具体的になっていくんですけども、一番多かったのが200円っていうところが27%の方がご回答いただいてまして、そのあと100円っていうところが21%っていうような幾らなら利用しますかという結果が出ております。

あとハニタス本格導入された場合どれぐらいの頻度で利用されますかっていうところにつきましては、週の2から3回が21%、月の2から3回が19%、週の1回ぐらいが14%っていうような結果が出ております。

あとハニタスについて具体的にご意見あればっていうところで、アンケート結果記入いただくところあるんですけども、こちらの方については、運行範囲を広げて欲しいでありますとか、運行時間を長くして欲しい、あと予約者の家まで来て欲しい、あと値段を安くして欲しいなどの意見がございました。

以上でございます。

○委員長（池田忠史君）

才協議員。

○委員（才協明美君）

運行範囲を広げて欲しいというに対しての何か回答ありますか。それぞれに対しての回答はありますか。

○委員長（池田忠史君）

山内総合政策課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

はい。総合政策課、山内です。

今回のアンケートにつきましては、3回目の実証実験というところもありまして、概要説明のところでもご説明させていただきました。

前回と変わったところというのは運行業者とあと月の運行実験の期間等になっております。

幾らなら利用しますかというところにつきましては200円というところが一番ご意見多かったんですけども、今回路線バスの料金よりもちょっと高くいうところで、300円というような設定をさせていただいております。

あと運行範囲につきましても、ミーティングポイントのところは前回の実験と同じところというところで、コストをちょっと安くいうか、上げるようなところもありまして、運行範囲を広げないで同じようなミーティングポイントで実証実験させていただこうと思っております。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

はい、才協議員。

○委員（才協明美君）

今頃言ってあれなんですけどアンケートってどういう意味の、アンケート調査ってどういう意味なんですか。

今話聞いてたら浅海理事はね、今から考えますみたいなことですけど、これアンケート調査って何ヶ月経ってまた3月にするってなったら、進展するとか、ちょっと考えていくとかなかったんでしょうか。

ミーティングポイント増やしたりしたらお金はかかるかもわかりませんが、では、どういうふうに拡大したらいいかとかは追及はできなかったんでしょうかね。追跡はできなかったんでしょうか。

○委員長（池田忠史君）

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海です。

こういったそれぞれの個別のアンケートの回答に対して全てなかなかこう対応すると、いうことはなかなか難しかったのかなとは思っております。

ただ一定ですね、運行範囲を広げて欲しいというご意見に対しましては、一つこれは予算的なことにもなるんですが事業費的なところにもなるんですが、システムが前回のシステムがありますので、そのポイントを変更するといったことにつきましてもそれが費用がかかってくるといったことはまず1点ございます。

その中で3回目の実証運行ということでですね、前回と比較して、できるだけこれを同じ条件でやった場合にですね、もし、これが実装に繋がれるかどうかということ、これは慎重に見極める必要があるということで、あんまり前回と条件がどんどん変わっていくとですね、なかなか比較しにくい部分もあるのかなというふうには考えております。

ですから実装ができるのかどうか、そこに繋がれるぐらいのことなのかどうかというところの見極めも同時に大切なというふうには考えております。

○委員長（池田忠史君）

はい、才協委員。

○委員（才協明美君）

私が言いたいのはね、前回、私の計算では一日平均乗車数 23,452 人なんですよね。

26 人とおっしゃってはりますけど。

そして、これ走行した回数は約 20 回、これ 1 台 1 回走るのに 1 人という計算なんです。それでその 1 人、これアンケート調査したのは乗った人の調査ですよ。乗った人の調査なんです、確か。

それで私一般質問でも言ってると思うんです。乗った人に何をアンケート調査してるのと言った覚えがあるんですけどね。この 1 人でも追跡できなかったのかと言いたいんですよ。1 人でも置き去りにしない、そういう考えでしょ、高齢者になって、このシステムは、交通、AI オンデマンドシステムは。この 1 人の人の声でも追跡できなかったのかと言いたいんですよ。

今浅海理事は、個別のアンケートは云々かんぬんと言いはりましたけどね。

それが大事やと思うんですけどね。

わかります言うてる意味。

○委員長（池田忠史君）

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海です。

委員のご指摘はわかっているつもりです。誰一人取り残さないという中でですね、こういった交通も、この AI オンデマンドの交通もですね、そういったスローガンで基本的には当然考えております。

ですからどなたでも乗れるといったところで、そういったところでは、誰一人取り残さないということはございます。

ただそのこととですね、アンケートをとった中で、お一人、これは実際の運行範囲を広げて欲しいと言ったお声はですね、これはご意見として自由記入のところでしたいたものでございます。

ここをですねちょっとこういったご意見があったの、この人数がちょっと今、何人いらっしやったかというところはちょっと

今、ちょっと把握ができておりませんが、その方のご意見を全て通すというのは、ここは少しお一人お一人を大切にするといいところと当然ながら事業費、それから当然費用対効果ということもございますので、一定制限されるものかなというふうには思っております。

○委員長（池田忠史君）

才脇委員。

○委員（才脇明美君）

少しでもアンケート調査に対して反映できたのかと私は言いたいですよ。

変わってないじゃないですか。変わったんは3台から1台になっただけ。ミーティングポイントも変わってない。

そこ、それを私は言いたいです。

聞きたいんです。

○委員長（池田忠史君）

はい、小寺委員。

○委員（小寺正人君）

小寺です。

今ね、電車が走っていると。それから路線バスが走っていると。それからタクシーも走っていると。お出かけ君が走っていると。福祉タクシー、これも走っていると。

この狭い中で、こんだけ走ってですよ。

棲み分けができるのかね。できなかつたら、こんなん、採算合えへんところから順次撤退していくという、可能性があるという事は認識されてるんですかね。

○委員長（池田忠史君）

浅海総務理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海です。

そうですね今委員のおっしゃった、いろんな交通モードがあると。それがですねなかなか今現在、特にバス事業者さん、それからタクシーの事業者さん、それぞれ収支改善の取り組みをですね、随分進めてこら

れてるという中にありましては、できるだけそれぞれの事業者さんは、無駄なところを何とかそこを改善していこうというお考えになるのはこれは企業としては当然かなと思っております。

ですから、その棲み分けと申しますか、できる限りそこが重複しないようなことは当然必要かなというふうに考えております。

○委員長（池田忠史君）

はい、小寺委員。

○委員（小寺正人君）

一番お金がかかる経費がかかるっていうのは、一体どこがどこに一番お金がかかるんですかねこの今実験してはる中で。一番かかる経費。

○委員長（池田忠史君）

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海でございます。

1つは今回このAIオンデマンドハニタスを運行させる際にはですね、この予約のシステムを活用しております。そのシステムに事業費がかかるというのはこれは当然です。

これはただ利便性を追求するとできる限りですね、予約がスムーズに行えるといったところ、そこはそれがそのことですね、人件費をも抑えられるというメリットもあるのかなと思っております。

そのほかにですね、まだこの運行については、ドライバーの方の人件費、それから豊能町の場合は、随分スマホでの予約をされてる方非常に多うございました。ただやっぱり一定電話の方もいらっしゃいますので、コールセンターの方も設置しておりますので、コールセンターの方の人件費なんかもかかってくるということがあるのかなと思っております。

○委員長（池田忠史君）



○委員長（池田忠史君）

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海です。

予算をですね、先日の議会の方でお認めをいただきました。

その範囲内ですね、可能な限り何かでできることがあれば、そこについては、検討する余地はあるのかなと思っておりませんが、あくまでも予算ですので、その範囲内ということは少しちょっと考えられたらと思っております。

○委員長（池田忠史君）

はい、中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。おはようございます。

何点かお伺いしたいんですけど、まず1点目はですね、予約の受付方法でスマートフォンアプリっていうね、当然ながらスマホでね、予約できますよという仕組みがありますが、これ確かなんかこないだの委員会かな、のときに話があったと思いますが、もし古ければ更新が必要というふうなことやったと思いますが、それはもう早めからもう更新できるもんやったら更新しといたら、もう今からでも更新しといたらええというそういうふうな意味合いですか。

それとももうこれは、ある時期が来て初めて、そっから更新してねというそういうふうな状況なのか、その辺りはどうなんでしょう。

○委員長（池田忠史君）

山内総合政策課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

今回の予算を認めいただいたのが先週12日になりますので、業者のアプリ業者とまだ打ち合わせができておりませんので、そこら辺の時期についてはまた事業所を通し

て、アプリ開発業者にも確認必要かなと思っております。

今のところ前回アプリを利用された方についてはアップデートか何かで、新たにダウンロードしなくてもいいというような報告を受けておりますので、その案内も一応含めて、早めに周知できるようにしていきたいと思っております。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

次はですね、決済手段。ここは黒文字になってる、黒文字になってるから前回と全く変わっていないというふうなことですけども、定期券っていうのも前回ありましたけども、この定期券というのも料金的には前と同じというふうに考えておいたらよろしいですか。

○委員長（池田忠史君）

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海でございます。

定期券につきましてはですね、今回1ヶ月ということもありまして、少しまだちょっと未定ではございますが、ちょっと関係機関とですね、そこについてはちょっと協議をしようかなと思っております。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

どんな協議になるかわかりませんがそれは定期券そのものをやらないという意味なのか、その定期券の金額を上げるとか下げるとかいうそういうふうな協議っていうふうな意味合いなんですかね、そしたら。

○委員長（池田忠史君）

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海です。

やるかやらないかとですね、やった場合には、金額をどうするかとその両方の協議をちょっとしたいなと思います。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

さらに同じ決済手段のところでお伺いします。

アプリ内決済というふうな形になってまして、一番後ろの方に米印があって、順次アプリ内での電子決済を導入予定とありますが、これは例えば今後もこの決済導入していくようなものがあるというふうなことを考えておいたらいいんですか。

○委員長（池田忠史君）

山内総合政策課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

概要のところに書かせていただいております順次アプリ内での電子決済導入予定というのは、前回のアプリ内でそのままクレジットカード登録していただいて、運賃を支払うという制度ですので、ここも変更なく前回と同じような形でやっていこうと思っております。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

ということは、前回どおりということなので今後増えることはないというふうなことでよかったですかね、そしたら。

○委員長（池田忠史君）

山内総合政策課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

委員おっしゃるとおりです。

○委員長（池田忠史君）

才脇議員。

○委員（才脇明美君）

もう実験すると決まってるんですから前向きな方向で考えなあかんと思うんですけど、まちづくりに対して何か考えておられますか。

3月、これに乗ってもらうために、このバスに乗ってもらうためにいろいろ娯楽、通院は病院ないですし、買い物ですよ。

そういうこと何か考えておられますか。

この前、菅野議員もおっしゃってましたけど、3月これ1ヶ月間、何か考えておられますか。考えましたかあれから。

○委員長（池田忠史君）

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海です。

そうですね3月に運行してる間にですね、イベントがある際にはですね、この予算の範囲内ですることはしたいなとは思っておりますが、そこは事業費とちょっと相談しながらというふうには考えております。

○委員長（池田忠史君）

才脇委員。

○委員（才脇明美君）

やっぱりちょっと娯楽がね、もっと娯楽があった方がいいのかなと思うんです。

ユーベルホールなり、オアシスの前の広場とかね、いろいろそのようにね田中課長。

初めにそういうふうにおっしゃってましたね、まちづくりからと。私忘れてませんから。

交通は衰退するのはね、まちづくりをちゃんとしてないから。交通がなくなるから町が駄目じゃないと思うんですよ。

田中課長、何か考えてはりますか。

○委員長（池田忠史君）

田中総務課長。

○総務課長（田中久志君）

はい。総務課の田中です。

このハニタスですね、もともと実証実験最初するとき、人口がどんどん減っていくと、そういった公共交通の需要というのが先細りしていく中で、どうまちの活性化を図っていくか。まちの活性化を図るにはやっぱり人の動きというのは必要だということで、町の中を動き回るその2次交通ですね、バスなりこのAIオンデマンドというのをやっぱり活性化していかないと、まちの活性化を図れないだろうというところでの実証実験だったかなというふうに思います。このハニタス自体がそのお出かけのしやすさっていうのを、高めていくというのが1つの目的なので、やっぱり利用促進が大事なのかなと思ってます。

2回目、有償実験なった途端に、1回目の実験から2割程度の利用者しかなかったというところでやっぱりそこは利用促進をもっとしていかないと駄目なのと、やっぱりなかなか採算っていうところを考えると、このAIオンデマンド事業って難しいところがありまして、なので、やっぱりその地域の方とか、事業者とかにもやっぱり事業者というのはその地域の事業者の方にも、やっぱり協力していただかないと、なかなか残していけないというところもありますので、そこは何かイベントというところお話ありましたけども、地道な利用促進が大事なのかなというふうには考えております。

○委員長（池田忠史君）

これ、地域でいろいろとイベントをされてる方にお声かけして何かこうイベントを、バスも出しますよみたいな出しますっていうか、言い方はあれですけど。っていう話と、町が独自という大変ですけど町で何かイベントするっていう考え方と、いろいろあると思うんですけど。

その辺3月いっぱい何もしない、才協委

員言ったように、何かしないと何もしないままだと、1ヶ月じゃ何人乗るんだっていう話になってくると思うんですけど。

まだもう少し実際に運行するまでにあるんで、その辺はもう少し考えて使ってもらう方法というのをね、考えてもらわないと駄目かなとは思いますが、どうですか。

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海です。

そうですねそういった利用促進とそれからハニタスのPRといったところですね、限られてる予算の範囲の中で、できる工夫があれば、そういったことについても考えていきたいと思います。

○委員長（池田忠史君）

はい、中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

今その利用促進というふうな部分のね、話に関連するかなと思いますが、先ほども理事の方からお話ありましたが、無料で走らした第1回的时候は結構ねそれなりに利用者があって、2回目は300円というね値段設定をしたがために8割ダウンかな、なんか2割まで減少してしまったというふうな話がありまして、結局、平均乗車数が一日26人というそういうデータが残っておりますけども、実際これは今後やっていけるかどうかというふうな見極めも当然これ今回の3回目の実験の大きな意味やと思いますけども、当然、数字26人というのではやっぱり難しいかな今後のことを考えたらと思ったりも私もするんですけども。

例えば今回3回目1ヶ月限定やけども、どれぐらい利用していただいたらいいんだろうかみたいなことで、1つ何かそういう、多くの方に利用していただくという意味で、

これぐらい、例えば人数、目標ですね、これぐらいは一日乗っていただきたいなみたいなそういうふうな想定とかそんなんは考えておられたりする数字はあるんですか。

○委員長（池田忠史君）

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海でございます。

この人数というのは、非常にちょっと難しいところかなと思っております。

ただ、今挙がってるその数字というのはですね、確かに5年度、前回あった際の平均の利用、一日の乗車人数が26人ということでございました。

その一方でですね、よそのですね、これは堺市の泉北ニュータウンでも、このAIのオンデマンドバスを活用されてるといったところですね、こちらにつきましては新聞の記事、新聞報道でもあったんですけども、一日の平均の利用人数が28人ということで、前年度から倍増したということで非常にニュースとしてはニュースの記事のトーンとしては、喜ばしいトーンで書かれております。

ただ我々26人で、そちらの方は28人で倍増したということで、これはその前の年との比較で増えたということではございますが、ここと比較してどうかというのを少し違うのかなと思いますので、この利用人数だけではなくて、それをするための事業費、それから1年だけやっても仕方がないので、ずっと継続してやっていけるか、それからそれをやっていった際にですね、ほかの交通モードへの影響がどのようになっていくのかといったことも総合的な判断が必要なのかなと思ってございますので、この人数があったらというのは、ちょっとなかなかお答えしにくいところかなというふうには考えております。

○委員長（池田忠史君）

永並議長。

○議長（永並 啓君）

とってもむなし事業ではなってるんですけど。

やっぱり3年目ということで、もうちょっと答弁の方は、継続した流れっていうものを意識して答弁してもらわないと。

認知度に関しては、初年度無料って言われたのを、議会の方はどちらかというのと、100円でも取った方がいいんじゃないかと、実際に合わせて。でも、初年度は、認知度を高めるために無料でするんだということでしたよね。そしたら認知度はそれなりに上がってるっていう認識でいかないとそれがわからないっていうのはちょっとひどいなというふうに思いますよ。

認知度あるけどだって実際に初年度は結構乗ったわけですから、それなりに広まっているんです。ただ料金取った瞬間に下がった。

やはり、あとは泉北を比較してもしょうがないですよ。

実際うちで実装するための目標設定っていうものは、ある程度持っておってもらわないと。26人は無理でしょうっていうのは多分多くの方がわかっている。実装するためには、せめてこのくらい乗ってくださいねっていうところを、やはり住民の皆さんにも働きかけていかないと、これくらいだったら残るんですよと。でもそれ以下だったらもうしんどいんですよっていうふうに、いや脅迫を与えるわけじゃないですけど、やはり住民の皆さんが使ってもらわないと交通網って維持できないんですよっていうような広報もあると思うんですよ。

でもそのためには、まずは、事業者の行政サイドが、何人を目標にするっていうものは明確に持っておかないと。今年度1ヶ

月だけど、前回の倍増する50人60人目指しますと、それぐらいいない次の繋がっていかないんでっていうような広報の仕方っていうのをしていかないといけないと思いますよ。

まだそこがわからない。エイヤーで、とりあえずやってみて、結果待ちみたいなんだったら、最低限実装のために繋げるのであれば、これくらいの人数が乗らないと実装にいけないんですよっていうのは、明確に出してもらいたいですけど。

全くそこら辺は持ってないんですか。

それをまずお答えください。

○委員長（池田忠史君）

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

はい。総務部、浅海です。

今の議長のですね、ご指摘ご意見でございますが、この数字をですね明確な目標の数値というところはですね、確かに今現在、必ずしも持ち合わせている訳ではございません。

ただこの収支モデルをですね、今回1台でやったときに実装していただけるだけの収支モデルというものも同時に検証するというところでございますので、そこをですね、しっかりと見極めていきたいなというふうに思っております。

それとあわせて、利用者の方々のご意見、それからニーズなんかもあわせて、検証していきたいなというふうに考えております。

○委員長（池田忠史君）

永並議長。

○議長（永並 啓君）

最後1ヶ月でも、実装に繋げるための検証ですよ。

やはりそれは実装する実験するまでにきちっと目標設定というものは出してくださいよ。これくらいは最低乗ってもらわない

と難しいんですということ。それを住民さんにも説明して協力を求めて、必死で何か次に繋げるような事業にならないかなと思ってんですけどやっぱりAIが邪魔なんで、AI使う限り赤字ですよ、おそろく。

その費用にシステム費用に何百万だったけ、取られてるわけですからそれを使う限り難しいんで、それを使わない実験というものを僕はやって欲しかったんですけど、そこら辺がないんでなかなか厳しいかと思うんですけど、せめて定期代、下げるっていう方法ないですかね。

これ、結構議会からも一生懸命乗ってくださいっていうPRはしてるんですけど、定期代だと、前は5,000円だったかな。そうすると、一日毎日お買い物に行ったら、100円で往復できるわけですよ。一回当たり100円の計算なるんですね。100円だったらすごい安いんです。

実際に足がなくなったときに、100円でスーパーまで行けて100円で帰って来れるっていったら、すごくいい足かなと思うんですよ。結局一回当たりで見ると、非常に高いけど、定期で買うとすごい安いんで、もっと定期を増やしていくしかないかなと思ってますね。

そしたら今回、前回は5,000円っていうのがすごいハードル上がったのであれば、せめて定期ぐらいを下げて皆さん1ヶ月頑張ってるいろいろな使ってみませんか、車がなくなったときを想定して、1回定期で1ヶ月、車が持たれてる方も車を使わずに、いずれ車返納しないといけないんで、車を使わずに、定期を買って乗ってみませんかっていうような、働きかけて広報の仕方として僕あると思うんですね。

そういった広報の仕方も考えるうえでやはり何かを変えていかないと。

それが定期をちょっと下げて、販売するっていう方法は1つあるかと思うんですけどそういった取り組みはいかがですか。

○委員長（池田忠史君）

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海です。

そうですねそういった定期代を、これまでよりも下げてというところではの検討ということは1つあるのかなとは思いますが、ただやっぱこれが、収支に当然ながら影響する中で、先にお認めをいただきました予算の範囲内で、どこまでそういったことが可能かということはあるのかなとは思っておりますが、その辺りも含めてですね、どういったことができるのか、という利用促進の分とですね、並行するような形ではございますが、どこまでそれが可能なのかというところはちょっと考えてみたいと思います。

○委員長（池田忠史君）

これちょっと確認したいことがあるんですけど、もともとこれ、事業費がかかっているうえで、採算が取れる金額ではないとは思いますが、最低限ここまででは出せると、こちらの財政負担ができて、そっから先は厳しいっていうラインは、今持っているんですか。

そこも持ってももちろん乗車人数の関係もありますけど、そのラインっていうのは、今、大体これ運行するのに3,000万とか4,000万とか実質かかりますよね、実際にちゃんと運行しようと思ったら、利用者の方ももちろん一部負担してもらって、出してもらった分で差し引きするわけですけど、そのボーダーというかその辺はどの辺だと思ってるのかっていうのをちょっと確認したいなと思うんですけど。

○委員長（池田忠史君）

高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

なかなか豊能西線というところで我々3,500万円のお金突っ込んでます。それで、何とかバス、地域公共交通を維持してるっていう現状がございます。

これ令和4年度のとくに無料で走らせていただきました。

人数的にはタダで乗ってらっしゃいますのでそれがマックスの人数なのかなと。それぐらいが一番乗っていただいても最大なのかなというところは、把握っていうんですかねそういう認識は私どもも持っております。

そのうえで、令和5年度に半年間走りましたけども、その時にどういう収支バランス取りながらというところで事業者の方、お考えなのかってちょっとわからないんですけども、我々、その時に考えましたが、昼間の例えば豊能西線のバスが走らなくなって、A I オンデマンドバスだけが走る、そんときに阪急バスがどういうふうな収支取ってられるのかっていうのはこちらで勝手にある程度シミュレーションいたしまして、それでA I オンデマンドバス何人乗ってもうたら大体3,500万円ぐらいの費用で走らすことできるのかなというふうに、ちょっとまだ手元に細かい資料がないんであれなんですけども、大体、ただのときが100何人乗っていただいてその7割ぐらい乗っていただくと、何とかその3,500万円ぐらいの金額で維持できるんじゃないかなということで、令和5年度は走らせていただきました。

その結果が結局20何人だったというところがございますので、これはなかなかちょっと難しいなという認識は令和5年度の経過からは読み取れるのかなというふうに思います。

そのうえで今年度どうしていくのかって  
いうところなんです、やはり目指すところ  
は、可能な限りそれはタダで乗っていた  
だいた人数に近づけるといところから目  
標でございますが、やっぱり今の 26 人、少  
なくとも倍あるいは 3 倍ぐらい乗ってい  
ただかないとなかなか我々としてこれ運  
行していくのが、システム代も含めてと  
いところで考えますと、難しいんじゃない  
かなというのが今の認識でございます。

ただこれ地域公共交通、我々が支える  
事業でございますので、民間が本当に民  
間のその収支だけでやられるととても  
じゃないけど、システム代であるとか、  
出てこないもんですから、その我々が  
支える部分と事業者さんが出して  
いただく費用のバランスを見ながら、  
これ、今後、運行していけるのか  
どうかっていうのは、全体で考えて  
いかないといけないのかなというふう  
には考えております。

○委員長（池田忠史君）

これ一部補助金使ってましたよねも  
とも。その補助金っていうのは、ず  
っとずっと出る。

もう、そのときだけで出た分って  
ことですかね。

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海です。

今回はこちらの方は補助金は活用  
されません。

○委員長（池田忠史君）

出なくて例えば実装したときに、  
その補助金っていうのは、一部でも  
出てくるのかっていうところです。

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海です。

こちらの A I オンデマンド交通  
のですね、

実装した場合の補助金の財源の  
ですね見通しということですが、  
こちらにつきましては、先日、ちょ  
っと運輸支局の方とも、これ以外  
のですね、補助金のことです、  
ご相談にちょっと行ってまいった  
際にですね、こちらの今後、A I  
オンデマンドっていうところが  
この幹線補助ではなくてフィー  
ダ、枝のですね、補助金という  
ところが制度に乗るかどうかと  
いうところも、ちょっとご相談  
をしたことがございました。

その中では、少しちょっと難  
しいのではないかといたお答え  
でございましたので、今の時点  
では、そこも含めたところ  
ですね、実装が可能なのか  
どうかということを考える  
必要があるかなと思っております。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

すいません。今の委員長の  
質問の答え回答の中で、いわ  
ゆる支線というね、そういう  
ふうな位置付けであると、国  
の補助は今のところはもら  
えないのかなみたいなそう  
いうふうなお話だったと思  
うんですけども。

今の状況やったら、今の  
この運行の仕方、ルート  
いとかね走るエリアやたら  
そうかもしれないけども、  
じゃあその国の補助、支  
線であっても国の補助を  
いただけるようにする  
ためにはどういうふうな  
ことが条件にプラスアル  
ファされると国のいわゆる  
お金いただける条件を満  
たすことになるとか、  
そんなところまでは、突  
っ込んで何か確認とか  
されましたか。

○委員長（池田忠史君）

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海です。

基本的にはですね、いろ  
んな国の補助金の制度  
がございまして、1 つ  
には永続的にするもの  
については別なんです  
けれども、

一定やっぱり実験的なところ、それから新規性が見込まれるようなものについては、やっぱり国の方も、いろんな事例とかですね、そういった実績をためていきたいということもあってか一定新規性というものが見込まれるようなものについては、補助対象というふうに考えられるようなところがあるかなと思っております。

○委員長（池田忠史君）

すいません、ちょっとだんだん金額の話になってちょっとずれてきてしまってるんで申し訳ないです。

僕ちょっと人数に対しての金額だけちょっと確認したかっただけなんで、ちょっともう一旦この金額の話はちょっと申し訳ないです。

はい、高尾副委員長。

○副委員長（高尾靖子君）

この3回目の実証、大変厳しい状況になるかと私は思うんです。

1回目が無料で2回目初乗り 300 円。

今回は初乗り 300 円変わらずいうところですね、もう明確に結果が出るような気がします。

だから、本当にこの1ヶ月でねこの年度末で、この実証するということ大変これ結果が出せるのかどうかというところに懸念があります。これは今からされるということで、進んでるわけですけどもね。

この点、大変同じ結果が出るような気がしております。やはり、金額っていうのは今、物価高でリアルにね、皆さん反応されているわけですから、無料だったらもうざっと利用されるという、今回はハニタスのこの割引券もないっていう話になってますのでね。

利用率というのは、どれだけの周知をされて、本当に実績が積まれるのか、そういうところも本当に見通しがわからないという

ことなんですけどね。

それで、これはここで聞いてもいいかしら。行政懇談会で、地域公共交通のことでお話があったということ、上浦町長がおっしゃったんですけどね、議員は、ちょっとそこには参加しておりませんので、どういようなね、最新の皆さんの考えがあらわに出てたと思うんですね、地域公共交通の中での、お話し合いの中で。

そういうところをまだまとめておられないかもしれませんがね、やっぱり新しい要求として今回はまだこれは周知されてないことですけどもね。これから3回目するのかどうかというお話もあったと思うんですね。

その中でどのような皆さん希望、期待を持っておられたのか。その辺、お話ちょっと聞かしていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○委員長（池田忠史君）

上浦町長。

○町長（上浦 登君）

はい。お答えさせていただきます。

14 自治会回らせていただいて東地区は東地区のですね公共交通の移動の手段に対するご不安、それから西地区は西地区のですねご不安を感じておられるというのは、ひしひしと私どもにも伝わってまいりました。

その中で、西地区で言いますと、西地区に走ってる路線バスがどうなるのかということとか、それから、特に能勢電車あそこは西地区は能勢電車が中心ですので、前は直通であったのに、今折返し運転になってるということとか何とか直通に戻らないかということとか、それから山下駅でのですね乗り換えが高齢者にとってちょっと負担になってるんで、何とか少しでも改善できないのかというようなこととか、いろいろいただきました。

その中で今おっしゃいましたように、A I オンデマンドバスはどうなってるんだというところもお聞きをされました。

その中で私どもが申し上げますのは、議会でもご説明させていただいておりますとおり、同じことを説明させていただいております。

これについては国からの補助金をいただいて、3回の実験、平場でございますので実験という言葉を使わせていただいて、実験をしてですね、それを実装、実際に走らせることができるかどうかというところまで進めなきゃならないものでございますということで、今年もう1回させていただきたいということで、1回目、2回目はですね、有料でさせていただいて、一日当たり26人でしたと、そこを3台で回らせていただいていたので今度は1台でさせていただきますというようなことで、現状をご理解いただいたというところで今止まっております。

その現状を踏まえてですね住民の方々もやっぱりその財政上の問題も含めてですね、今、そしたら、今回の3回目をさせていただいてですね、住民さんの方から立場から言うと3回目をして、どうしていくかというのを実際にですね行政の方が、慎重に判断させていただいて進めるか、それともなかなか厳しいものがあるというようなことになるのかというような判断をするんだろうなというようなお気持ちでおっしゃっているのではないかなという、思っております。

以上でございます。

○委員長（池田忠史君）

はい、高尾副委員長

○副委員長（高尾靖子君）

ありがとうございます。

1ヶ月という期間あっという間に過ぎて

しまいますのでね、これが本当に300円になったら、前は長かったですけども、1ヶ月経ってその結果が全く本当に一日28人以下になる可能性もあるんでね、そういう実証が本当に正確に出るかというのは、相当厳しい判断になると思うんですね。

これ何とかならないのかな今からでも、割引券とかですね、せめて実証をされるんですから、そういうところはできないのか。

それで、このオンデマンドっていうのは、デジタル田園都市国家構想の中での1つですのでね、財政は一切豊能町のは使いませんというね、前町長のお話でした。

その中でね、これをまたたくさんいろいろ費用発生してますよね、今回も。

その辺で、大変財政の困難があると思うんですけども、その点をぜひですねもっと煮詰めていただきたいと思うんですね、いろいろな問題残ってましたよね要望を出しておりますけど。

このバスの所有はどこだとか、車検がどこにするのとかそういうところも明確になってないところで、いろんなことを進めるうえで障害になっているので、私自身もその判断なかなかできない状態ですよという、いろいろなところが明確になってないところですね。

そういうところで、もう少し、今おっしゃったように、これから慎重に進めていきたい、現状を踏まえてとおっしゃったんですが、これはこれからまだ相談できる話なんでしょうか。地域公共交通会議として、そして、阪急バスさんか、バスさんともお話しできることなのか、その辺をお聞かせ願いませんか。

○委員長（池田忠史君）

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海です。

今回のですね、3月にあります実証実験につきましても、予算も定まっておりますので、どこまでどういったことができるのかというのは、正直ちょっと我々の方も、なかなか厳しいなというところはございます。

ただその中でですね、できる限り、何が可能で、どういったところができるのかといったことにつきましては、ちょっと考えていきたいなと思ってございます。

それから阪急バスさん、それから京都タクシーさんともですね、今回の実証運行と一緒にやるメンバーでございまして、できる限りですね、意思疎通を図りながら、実施していきたいというふうに考えております。

○委員長（池田忠史君）

高尾副委員長。

○副委員長（高尾靖子君）

ぜひ、意思疎通をしっかりとしていっていただきたいと思うんですね。

これから高齢化している中で、もう町長もおっしゃったんですけれども、切実にね、皆さんの声が出されたと思うので、私も議会の中で、交通問題は切実な問題だということを質問してきました。

その中でやはり進めていくことが求められているんですけどね。これが本当に、前回の300円で継続できるのかなというところに、本当に厳しい問題があるなと思ってます。それは今私の気持ちなんですけどね。

そのところで、きちっとそれこそ腹を割って、地域交通会議で話し合ってもらいたいと煮詰めていただきたいと思います。

お願いいたします。それは要望ですけど。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

そうしましたらですね、次、この表の中の車両数のところで質問をしてみたいと思います。

1両を使って予備車両1両となっております。もともとこの1両で今回運行するっていうのはこれまでの第2回目の結果等を踏まえての、いわゆる数値になっているのかなと思います。

確かに先ほどから言われてますけども一日利用者が平均26人だったというふうな結果でございました。

そういった意味で1両でいいのかなというふうな感じでここをね、数値挙げておられると思いますが、これもし仮にうれしい誤算じゃないですけども、結構利用者がたくさんたくさんいてましたと。そういう場合例えばその予備車両を臨時車両として同時に走らすとかいうふうなことは考えてるのか。それとも利用者がいっぱいいっぱいでもとにかくもう1両でもう全部やり通すんやというふうなことなのか。

その辺りどのようにお考えなんでしょう。

○委員長（池田忠史君）

浅海総務部理事、

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海です。

そういったうれしい悲鳴といいますか、そういった利用が非常に増えてということになりますとちょっとなかなか1台で運行できないようなことになりましたら、さらにその予備車というのはそうなりますと、それを運転する人件費というところに影響してきますので、そこは、実際ちょっとなかなか難しいのかなというふうには思います。

ただ、そういった場合に乗り切れないといったときにですね、その予約の不成立ということが発生するのかなというところで、そこでどれぐらいのニーズがあったという

ことは拾っていけるのかなと思ってございますので、そこは実証の結果として、これから検証する際に反映されるものかなというふうに考えられます。

○委員長（池田忠史君）

これでも予約の不成立があまりに多かったら、せっかく使おうと思ったのに乗れなかった。じゃあもういいやってならないですかね。

あまりにうれしい悲鳴の場合の話なので、まあまあね、仮想の話ですけど。逆にそれによって、不利益がこうむるとかっていう可能性もなきにしもあらずっていうことはあっても、もうそれは予約不成立がそのデータとして出ましたでいいんですかね。

実験でも実装に向けての実験なんで。

高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

今、我々想定しておりますのは車両1両の運転士1名ということで議会の方で予算を計上させていただいてお認めいただいたということがございます。

今、上の方にふれるということで、我々としてありがたいお話なんですけどもそれは、今回実証実験させていただいたうえで、そういうことであれば、本当に実装のときにですね、1台でいいのか、2台がいいのかっていうところは、今回の1両でその予約が不成立だったという現状を踏まえたうえで、さらにどういう形で、じゃあ次繋げていくのかっていうところを見極めさせていただきたいということがございますので、今回はあくまでもその1両でやらしていただくということが基本であるというふうに考えております。

○委員長（池田忠史君）

よろしいですか。

もうないようですので、今委員の皆さん、議長も含めてですけど、いろいろ意見をち

よっと述べさせていただきました。

やはりですね、これ公共交通の今後実装していくことを考えるのであれば、いろいろな意見があった中の分は、もう少し実装する、次の実験をするまでの間にですねもう一度揉んでもらって、できる部分ではちょっといろいろ考えてもう少し考えていただきたいなというところと、あと、先ほどから言っているとおり、使ってもらうためにはどうするのかってところがやっぱり一番なので、イベントをするのか、定期代を安くするのか、運賃安くすると、先ほどもあったバスのあれとタクシーの関係といろいろあると思いますんで、その辺、割引券の単発で1枚だけ出すとかなのか、いろいろその辺も含めて、もう少しちょっといろいろ考えてから実験に入っていただきたいなと思いますので、その辺はよろしく願いいたします。

はい。それでは次に、その他ですけれども、委員の皆さん何かございますでしょうか。

えっとですね、前回ですね、皆さんからいろいろ意見がありまして、豊能町の路線バスとか交通全体としてですね、かなり厳しい状況だということで、町政懇談会でも町長を含め、皆さんそういう点はもちろん、ご説明いただいているとは思いますが、議会としては、一応報告会という形の動画で、もう少し乗っていただかないとというような案内は一応さしてもらいました。

町としてもですね、もちろん今回の町政懇談会だけではなくてですね、広報誌とかですね情報発信という形で、もう少し住民さん全体にですね、わかっただけのような発信をしていただければと思うんですけども、その辺はいかがでしょうかというのを、ちょっと私の方から、1つあるんですが、いかがですか。

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海です。

そうですね。この利用促進というのはですね、利用促進というか、この地域公共交通をどう支えていくのかというところに尽きるのかなあと考えております。

なかなか先ほど来からもありましたように、バス事業者さんの方の深刻な運転士不足。それからそれと利用の減によってですね非常に収支が厳しい状況になっているといったことで、なかなかこう交通事業者さんも地域公共交通を支える事業者さんではございますが、同時に民間企業さんでもございます。

ですので、そういったところを路線の維持をですね、なかなか事業者さん、それから行政だけでやるというのは非常に難しい時代に入ってるなとっておりますので、できる限り皆さん、住民の皆さんにもですね、ご利用することで地域公共交通を維持していくというような機運をですね、機運醸成をするような取り組みをこれからも考えていきたいなとっております。

○委員長（池田忠史君）

そうですね、今もうおっしゃったとおりだと思いますので、それをもっと住民さん、皆さんにわかっていただけるような何かをできるだけ早い形で出していただければなと思います。

それとですね、これもう何回も言ってるんですけど、今実証実験はあくまで西地区ですよ。東地区は才脇議員がよく電話繋がらないというお話もありますけどデマンドタクシーだけが今走ってる状態で、以前からずっと言ってる、どういった利用をしたいのかっていう公共交通の必要性について、全体でアンケートをとってはっていう話をしてるんですけど、なかなかとって

られないんですけど、その辺はちょっとニーズの把握のためのアンケートっていうのは、それはやっぱりとらないかんじゃないですか。

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海です。

住民の方々に対してのこの利用に関してのアンケートでございますが、この豊能町のですね、こちらですね、地域公共交通計画を今年の3月に策定をいたしました。

その際にですね、住民の方々にアンケートをとって今の利用の状況でありますとか、どういったところで改善が求められるのかとかですね、様々な事柄について意識調査をしております。

その中でですね、そういったことも含めて、こちらの地域公共交通計画の形になっているということでございますが、ただ、常にですね、利用者、住民の方々の意識、それからA Iオンデマンドに関しての意識とかそういったことについても、常にそういったことにつきましては耳を傾けながら、適宜アンケートみたいなものはこれからも適切な時期に実施していきたいなとっております。

○委員長（池田忠史君）

才脇委員。

○委員（才脇明美君）

そのアンケートの対象は、年齢はありましたね。確か若い世代にアンケートをとられたと思うんですよ。

あのね、交通弱者というのは、もう高校生か高齢者ですわ。

そういった方々にアンケートをとらなくて今バリバリ元気な人にアンケートをとってると思うんですよ。

車の乗ってる人、車のある人、運転できる若者、別段そんなに今交通のことを別に

関係ないねんていうような人に、多分とってたと思うんですけど。

○委員長（池田忠史君）

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海です。

この際のアンケートの対象はですね、個人ではなくてですね、世帯の方に調査票をお送りするという形で、調査対象は16歳以上の方でございますが、配布自体はですね、世帯で配布をしておりました。

その際にですね、内容につきましては、配布数はですね、3,010世帯に配布をいたしまして、アンケートを調査を実施したものでございます。

○委員長（池田忠史君）

才脇委員。

○委員（才脇明美君）

私が聞いた話では、うちもそうですけど、うちの娘に来ました、息子に来ました。

ほかの人にも聞いたら、子どもに来てるねんと。高齢者にはアンケート配ってへんねんねという、名前で来ましたよ。

ちゃんと才脇何々で来ましたよ。

○委員長（池田忠史君）

田中総務課長。

○総務課長（田中久志君）

はい。令和5年度の話ということで私の方からお答えさせていただきます。

計画のときにとらせていただいたアンケートにつきましては、まず東地区につきまして全世帯に送らせてもらいました。

これはもう、東地区にお住まいの方全世帯にお配りしてもらいまして、世帯主の方と、今おっしゃったように若い世代の方がいらっしゃったら、お二人両方とも答えてくださいねという形でのアンケートをさせてもらいました。

西地区に関しましては、世帯数が多いの

で割合でですね、16歳からと何歳までだったかな、16歳以上の町民で割合でですね、送らせてもらったというところで、交通弱者の方も含めて、全体としてそこをアンケートとして捉えているというところでございます。

○委員長（池田忠史君）

才脇委員。

○委員（才脇明美君）

いや、私のちょっと勘違いかもわかりません。すいません。

○委員長（池田忠史君）

はい、永並議長。

○議長（永並 啓君）

これアンケートとってこれって議会からお願いした経緯は、答弁の中で、そちらのね、答弁の中で、東地区の住民さんが、こういうニーズで交通を使いたいがわからないっていう答弁をされたからなんですよ。

近くに行きたいのか、町外に行きたいのか、買い物に行きたいのか何に使いたいがわからないから、どうしたものかっていう、入口のところで、東地区の交通問題についてまだ議論をされてなかったから。それやったらまず最低限住民のニーズは把握しないと、次の事業、手打てませんよねっていうことでお願いした訳ですよ。

そしたらそのアンケートからその結果はわかりましたよね。どうですか。

東地区の住民さんは、どういうふうなとこに目的地として行きたいのか、それによって対策がA I オンデマンドバスなんか町内しか走りませんよね。それをじゃあ東地区だけの町内を回すバスが必要なのか、それともそれを西地区に持っていくのが必要なのか、そこによって交通を打つ手立てが変わってきますよね。

だから入口のどういうニーズがあるんですか、どういうものを欲しているんですか

と聞いてくださいっていうことでお願いしたんでそれを教えてください。

○委員長（池田忠史君）

田中総務課長。

○総務課長（田中久志君）

はい。総務課、田中です。

特に東地区のお話だと思うんですけども、アンケートの際ですね東地区の方からのご意見としまして私も見させていただいて、やっぱり感じたのはモータリゼーションというやっぱりお車での生活が非常にやっぱり浸透していて、公共交通をあんまり使わないという意見が多かったように思います。

例えば東地区デマンドタクシーについても、なかなかその認識されているというか、認識されている割合も低かったですし、やはり車中心の生活なんだなというふうに感じました。

令和4年度の末に東地区に関しましては公共交通を考えるワークショップということで、自治会の方にご協力いただきまして、ワークショップも開催させていただいたんですけども、その時に出た意見としましては、当時コロナのワクチン接種というのもやっておった時期やったんですけども、希望ヶ丘とか東地区の方が西地区の医院に注射打ちに行くというようなときに、なかなか足がないんだというようなところがありましたので、やはり東地区の方から西地区の方に行く東西を東西を動けるような、そういった交通モードがあるんだなということを実感しましたので、東西のですね、デマンドタクシーとか、そういったところに繋げていったと、というような状況でございました。

○委員長（池田忠史君）

才脇委員。

○委員（才脇明美君）

あのね、自治会とかそういうところに出

て行く人は元気な人なんですよ。車に乗ってる、偉い人なんですよ。

そういう人たちは交通の不便は感じてない。本当に弱い人、自治会長にも言えない人もいっぱいいますよ。

そういう人たちの声を聞いて欲しいなと思うんです。それが私たちの仕事なんです。

それで、いろんなことを一般質問で言わしてもらってます。

弱者の声なんですよ。自治会長や何やそんな会議に来る人は皆偉い人。車の乗れる元気な人です。

違いますか。

○委員長（池田忠史君）

浅海総務部理事。

○総務部理事（浅海 毅君）

総務部、浅海です。

今委員おっしゃってるのはそのとおりだなと思います。

実際にアンケートをした際にですね、特に東地区の方で、先ほどもちょっと田中課長の方からありましたが、地域公共交通がなくなった場合、どういうふうに生活が変化するかといったところではですね、東地区においては、変化しないというお答えが最も多い状況でございました。率にして45.7%ということで、そういった結果でございました。

ただその一方でですね、年齢別で見いきますと、30歳未満の方のご自身での交通手段、自動車なんかを持たない若い方、それから75歳以上でも、その際には移動手段がなくなるといったことが4割を超えてるということがありますので、そういった層をどのように交通手段を確保していくのかということは、課題であるというふうに認識しております。

○委員長（池田忠史君）

永並議長。

○議長（永並 啓君）

先ほど田中課長言われたようにそれでアンケートをとってニーズを把握したということでもいいですね。

そしたら次に打つ対策っていうものを考えていかないといけないですね。

今、車を持ってる人達何の問題もない、地域公共交通使わないんですよ。

だから、先ほどからもっと住民さんに豊能町の一番の課題は深刻な高齢化ですね。高齢化することによって、車を持てなくなった。持てなくなったときをイメージしてどうしますかっていうことをもっと働きかけていかないと。

今ある車運転できますよ、さらに地域公共交通使いますかって誰も使えませんよ。

課題は、免許返納した場合、どうやって生活できますか、どこに買い物行きますか、どこにどうやって病院行きますか、そういったところをもっと訴えていって、その場合、どういう交通手段を使いますかっていうような取り組みにしていかないと。

やはり住民アンケートをとるにしても、今現状はどうですか、じゃあ将来的にどうなりますかっていうような、ちょっと不安感を煽っていかないと、本当に困るの住民の皆さんですからね。

そこで正確に情報を取って、それに応じた対策をとっていかないと。

ですから今回でアンケートをとりました。それなりにわかったっていうのであれば、次に東地区、特に東地区ですね、まずは。

デマンドタクシーがあんまり機能してないですけどそれをどういうふうに使っていくのか、A Iを使わないオンデマンドバスでどういうふうに町外に結びつけるのか、それとも西地区にくっつけるのか、何か考えていかないと、本当に住めない町になってしまうですよ。

ですからそこら辺の施策を期待しております。

○委員長（池田忠史君）

ほか、よろしいですか。

それでは、A I オンデマンドの実証実験の話とその他、今ちょっと2点ほどお話しせてもらった分と以上で。

ほかに何かございませんでしょうか。

よろしいですか。

才協委員。

○委員（才協明美君）

明日の地域公共交通会議、楽しみにしております。

○委員長（池田忠史君）

意見ですね。はい。

では、ほかないようですので、本日の委員会は閉会したいと思います。よろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（池田忠史君）

異議なしと認めます。

よって、本委員会は閉会することに決定いたしました。

これをもって、第7回交通特別委員会を閉会いたします。

どうもお疲れさまでした。

午前10時56分 閉会

以上、会議の次第を記し、これを証するためここに署名する。

令和 年 月 日署名

豊能町議会 交通特別委員会

委員長